

平成24年8月29日

東日本大震災における広島大学の対応について

第31回学長定例記者会見（平成24年7月27日）以降、広島大学が対応した内容を下記のとおり報告いたします。（詳細は、大学HPをご覧ください。）

本学は、地震により被災された皆様に対して、引き続き、できる限りの支援を行う所存です。

記

1. 医療活動支援関係について

(1) 「三次被ばく医療機関」としての広島大学の活動について

- 緊急被ばく医療チームを編成し、福島県へ連続派遣。

平成23年3月12日（土）第1班を派遣し、平成24年8月29日（水）現在までに37班、延べ1,296人を派遣しています。

基本チーム構成は、医師2人（うち1人は救急医）、診療放射線技師1人、看護師1人、事務職員2人の計6人で、第13班（平成23年4月28日出発）以降は一旦、3人体制としましたが、第19班（平成23年5月20日出発）から3～11人体制とし、一時帰宅に伴うスクリーニングに対応するとともに、平成23年7月からは福島第一原発内に設置の「救急医療室」への救急医の派遣も行っており、平成23年11月からは、看護師も順次派遣しています。

2. 広島大学大学院リーディングプログラム（放射線災害復興プログラム）経費による派遣

- 総合科学研究科 教授等を、平成24年7月30日（月）～平成24年8月2日（木）相馬市・南相馬市へ派遣。相馬市の宇田川流域・南相馬市の真野川流域で大学院生の研究フィールド決定のための事前踏査を実施。
- フェニックスリーダー育成プログラム運営会議メンバー及びフィールドワーク実行委員会が、平成24年8月8日（水）～10日（金）南相馬市（市役所、市立総合病院、広島大学）で福島大学南相馬地域支援サテライトを活用したフィールドワーク科目の準備を実施。

【本件に関するお問い合わせ先】

財務・総務室 総務グループリーダー 山根
TEL：082-424-6011 FAX：082-424-6020